

福祉施設の「空き車両」を活用した サロン送迎の仕組みづくり

～サロン活動への参加をあきらめている方に届けたい～



小諸市 高齢福祉課

地域ケア推進係 武田 一実

社会福祉法人 小諸市社会福祉協議会

生活支援コーディネーター 鷹野 聡史

小諸市の紹介①



東京から電車で90分
自動車で180分

小諸市は、長野県の東部、浅間山の南斜面に広がり、市の中央部を千曲川が流れる詩情豊かな高原都市です。標高約600~2,000メートルに位置し、年間を通じて雨の日が少なく、国内でも屈指の晴天率を誇ります。

小諸市の紹介②

- ・人口 41,240人 (R7.1.1現在)
- ・面積 98.55km² (東西12.8km、南北15.4km)
- ・68の区(自治会)で構成
- ・高齢化率 33.27% (R7.1.1現在)

小諸市の公共交通

- ◆鉄道: JR小海線、しなの鉄道
- ◆コミュニティバス:
(予約制相乗りタクシー) こもろ愛のりくん
- ◆タクシー: 2社 24台 (R6.6.30現在)



取り組みの経過（寄せられた声）

◆きっかけ

- ▶ 市内68区（行政区単位）で介護予防活動が展開されている。
- ▶ 公民館等までの移動が難しく、健康達人区らぶ（サロン活動）の参加を諦める人がいるという声が社協に寄せられていた。

健康達人区らぶ

概要	<ul style="list-style-type: none">・区内のおおむね65歳以上の方・各区の公民館等に社協職員が出向き、健康維持や介護予防に関連する話や実技を提供・平日（半日）開催
実績 （令和5年度）	延べ開催数 599回 延べ参加人数 7,389名



取り組みの経過（寄せられた声に対して）

◆きっかけ

- 地域ケア推進会議（第1層協議体）にて課題提起したところ、介護保険サービス事業所の空き車両を使って公民館までの送迎に協力できるとの話に。

◆この状況を踏まえて…

- 協議体メンバーのA社会福祉法人の協力により一つの区健康達人区らぶで3回の実証実験 → 広げていけそう
- 送迎可能な社会資源の把握 ☞ 介護保険サービス事業所へのアンケート
- 実証実験の結果をもとに必要としている区の把握 ☞ 68区へのヒアリング調査

支援ニーズの把握に向けて ～区ヒアリング結果～

移動に課題があり、健康達人区らぶに来ることが
できない方はいますか？

- ▶ 68区中、10区より支援ニーズがあると回答

[内訳]

6区：当面は自助や地域の支え合い（互助）で対応可能

残りの4区：地域の支え合いで対応が難しい⇒実施に向けた協議開始



送迎応援可能な社会資源の把握に向けて ～介護保険サービス事業所アンケート結果～

「送迎があれば地域活動に参加できる高齢者がいる」という 地区があった場合、送迎の協力ができますか？

- ➡ 24事業所中、19事業所が「関心がある」と回答
そのうち、6事業所から「協力できそう」と回答



一方で「自動車は出せるがスタッフは出せない」
「事故があった場合への補償が心配」との声も。

調査を終えて

◆区ヒアリング結果より

- 今すぐの支援を必要としている区は少ない
→ 今後さまざまな移動支援モデルに挑戦できる余裕があると考えている
- 試行に協力いただける区がある→当面の困りごとへの支援が期待されている

◆介護保険サービス事業所アンケート結果より

- 関心がある事業所が多い→移動支援モデルを示すことで将来の協力が得られそう
- 協力できる事業所がある→当面の困りごとへの支援ができそう
- 自動車は提供できるがスタッフの提供が難しい→新しい移動支援モデルが試せそう
- なにかあったときの不安感がある→不安感の軽減をする必要がありそう

今後の展開

◆自動車と運転手提供可能モデル→試行区の拡大

A社会福祉法人により2区の移動支援を実施

B社会福祉法人により1区の移動支援を調整

C社会福祉法人により1区の移動支援を調整

◆自動車のみ提供可能モデル→仕組みづくり

運転ボランティアを育成に向け模索

◆持続可能な取り組みに向けて、協力事業所に対する継続的なフォローや

万が一の事故補償などの整備

☞自動車専用保険への加入(社協会費)



まとめ

地域からいただいた声

利用者本人「これまで友人に送ってもらっていたけど、気兼ねなく通えるようになって嬉しいよ」

運営者「参加者同士の送迎に心配もあったけど、安全に来られるようになったから安心してきたよ」「来られなくなった方にもちょっと声をかけてみようかな」

協力事業所「今後も住民同士で難しいところには協力していけるとよいな」

→小さな声がここまでの取り組みに。私たちはこの喜びを広げたい

◆参加をあきらめ、これまでの区のつながりが途切れそうな高齢者に届ける一つのツールに

ここから先の展開

これからも社協に寄せられる声を大切にしながら移動支援に関わる保険、運転ボランティアの育成など移動支援を拡大していきます。